

発行所

氷川神社社務所

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南4-44-19

電話 03-3314-4147

FAX 03-3315-0034

日本唯一
気象神社

氷川神社
公式HP



気象神社
公式HP



高円寺氷川神社 公式X
@koenji_hikawa



高円寺氷川神社氏子青年会新年会



氏子青年会新年会のようす



氏子青年会の皆様



1 会長の加藤山葉さん

1月28日(日) 高円寺氷川神社氏子青年会の新年会が開催されました。(於 氷川神社大広間)

氏子青年会には日頃から神社行事や境内清掃においてご奉仕を戴いており、大変お世話になっております。また氏子青年会独自の行事も年間通じて行われており活発に活動されております。

氏子青年会は昭和43年に結成され、氏子地域の青年同士の交流活発のきっかけとなってきました。近年は会員の年齢構成の高齢化が徐々に進んできておりますが、この数年で若い世代の会員も徐々に増えてきており、昨年も2名の新会員を迎えることができました。これからも氏子青年会の活動が益々活発化していくことが期待されます。

今年の新年会は、3年振りに氷川神社の大広間で開催しました。新年会には氏子総代や、日頃からお世話になっていらっしゃる関係者が来賓としてお越し戴き、清興も盛り込み、そして、参加者の紹介、会歌唱和と盛りだくさんの内容となり、皆で盛り上がりました。

今年も神社の行事には、氏子青年会の協力が必要となつてきますので、今後とも共に協力して頑張っていきたいと思えます。氏子青年会の安寧と繁栄を心より祈念申し上げます。

ひな祭り餅つき大会

氷川神社氏子青年会の年中行事として毎年3月第一日曜日に「ひな祭り餅つき大会」が開催されます。

今年も年初から氏子青年会側とも協議を重ねてきて、開催することとしました。皆様のお越しを心からお待ちしております。

日時：令和8年3月1日(日)
11時～13時
※食材なくなり次第終了
場所：氷川神社境内



昨年も多くの子供たちが参加しました



気象神社 (各種祈願祭)

僕が見たかった青空

1月9日(金)「僕が見たかった青空」の今井優希さん、須永心海さん、柳堀花怜さん、吉本此那さんの4名がご参拝されました。
「僕が見たかった青空」は「AKB48」などをプロデュースした秋本康さんが「乃木坂46」のライバルとして、プロデュースした女性アイドルグループです。
当日は20歳の成人祝い、晴天祈願祭を執り行いました。気象神社は皆様の活躍を心より祈念申し上げます。



小島電機工業(株)

1月27日(火)、小島電機工業(株)の皆様が御来臨されました。2月に開催される「KOKIIMA大感謝祭2026」の晴天祈願をさせて戴きました。



(株)日刊スポーツ新聞社

1月7日(水)日刊スポーツ新聞社様が晴天祈願・祭事成功祈願の為に御来臨されました。2004年から毎年1月にお越し戴いており、晴天祈願・祭事成功祈願の祭事を齎行させて戴いております。同社が主催するすべての催事の日が晴れて無事に開催できるように祈願させて戴きました。

富士スピードウェイ(株)

1月13日(火)富士スピードウェイ(株)様が晴天祈願の為に御来臨されました。2012年から毎年この時期にお越し戴いており、晴天祈願の祭事を齎行させて戴いております。今年もイベントがある時は晴天に恵まれ、各イベントが安全に開催され、そして何よりも関係者すべての方々が事故なく安全に過ごせるように祈念します。



一般財団法人 北海道道路管理技術センター

1月27日(火)一般財団法人北海道道路管理技術センターが御来臨されました。北海道も今冬は強い寒気による大雪に見舞われ、気象災害が少しでも緩和されることを祈願させて戴きました。

★かつてのこうえんじん★

第十九話

橋浦奏雄

『物語 城西消費組合』という本の冒頭に「一九七七年一〇月一日、東京・杉並区高円寺・氷川神社事務所で小さな集会がもたれました」とある。現在の生協の元になった城西消費組合に関わっていた人々が集まり、戦前の活動の思い出を語り合う会が開かれた。同組合の事務所は高円寺の南、当時「宵町通り」と呼ばれた道にある二間の小さなしもた屋で、そこを活動の拠点とした。

組合長で、戦後初の民選区長になった新居格のことは前に書いたので、今回は民族学者、画家、作家、社会活動家と、多彩な顔をもっていた橋浦奏雄の生涯に触れてみたい。

橋浦は1888年(明治21年)鳥取県、いまの岩見町に産まれた。江戸中期から、明治30年代まで、大阪と北海道を日本海周りで、商品売り買いしながら結んでいた北前船が、橋浦の故郷近くにある新温泉にも寄港していた。物とともに、大阪からもたらされる、最新の情報も、彼の地には伝わっていた。

祖父の増五郎は、兄が蕩尽のためにつぶした米問屋の借金を、丁稚奉公のすえに返し、その実直な人柄を認めた篤志家の援助で酒蔵を始め、橋浦が産まれたころには村内でも有数の豊かな家になっていた。なに不自由のない幼少期を送っていたが、使用人からは、家人の目に入らないところで「このごく潰しが」「米の飯が食えない気持ちには分かるまい」とのしられていたという。上京した兄が持つてくる文学作品、そこに書かれていた東京の自由な空気、そして虐げられた人々から向けられる怒りと哀しみ。矛盾するようなふたつの事柄が結びつき、のちの社会活動家としての橋浦の核が、小さなころから形作られたのだろう。

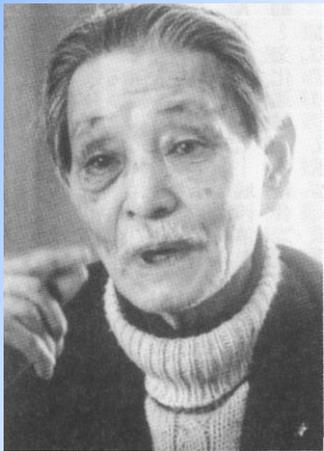
東京に出た橋浦は1915年に国民実科大学院を設立し、大学講義録という、大学の授業で用いられている専門用語の解説書の出版を始める。

多くの人に学ぶ機会を提供したい、という思いで始めた事業だったが、思うように利益を得ることができず、わずか2年で閉じることになる。

経済的には損なってしまったが、出版業をやっていた中で育んだ関係は、その後の宝となった。なかでも有島武郎の知己を得ることと、橋浦の人生は大きく変わっていく。後年、大正デモクラシーと名付けられた自由な時代に、橋浦は鳥取時代から付き合いのある青年文士とともに有島の書齋に上りこみ、文学論のみならず、様々な時事問題、海外で交わされるロシア革命に関することなどを論じた。有島武郎というひとりの年上の文壇の大家が、橋浦たちを対等な友人として遇し、こころを開き話をする様は、橋浦たちの感動でもあったが、初老に入ろうとする有島にとっても、かつての身の内にあった、青い春に触れるような、新鮮な時間だっただろう。有島はその会を「初心会」と名づけ、開かれるのを楽しみにしていたという。有島武郎はそれからしばらく後に、自裁して果てる。理由はどうであれ、身近な大人のこのような亡くなるという問いを、橋浦に投げかけたことだろう。橋浦が民族学に興味をもったのは、下北半島の突端に尻屋という村で、些細ながらも村人が話し合いで物事を決めていく、という話を耳にしたことに始まる。支配する者される者がいない、かつてあった理想郷、原始共産制で営まれている村が、今の日本にもあるのでは、という悦びとともに、橋浦は同地に足を運び「尻屋村」という題で文章にした。しかし、それを読んだ尻屋村役場の人間に「共産村」と話題になっただけ、昔からの風習が残っているだけ、過激な共産主義とはまったく違う」と一蹴される。知人にこの顛末を話すと、柳田国男の話の聞くよう勧められる。

橋浦は講演前の楽屋にいきなり柳田を訪ねる。紹介状を持たない橋浦を暖かく向かえ、話を聞きこみ、語ったという。「原始共産制という一つのことがらは、いわば総合的な生活の一つにしかすぎず、もっと広い視野をもたないと、その土地は理解できない」橋浦は後年に、自らの眼で見て感じ「あるく」ことの重要性を訴えている。歩くことで見えるもの、そこで知る人々の生活。この視点は民族学者としての橋浦の姿勢にもなり、また同時に社会活動家、そこで見えた生活をどう変えていくのか、という橋浦の考え方と行動にもつながっていく。

ロシアの革命家で生物学者のクロポトキンの書いた『相互扶助論』は、シベリアの辺境守備隊の傍らで、過酷な自然下で生息する生き物を観察した結果、団結と相互扶助という協力関係によって種は生き延び成長する、という結論に至った書物である。十代後半に読んだこの本の影響は、革命家と生物学者というクロポトキンの生き方と対を成すように、社会運動家と民族学者としての橋浦を産み育んだように思われる。

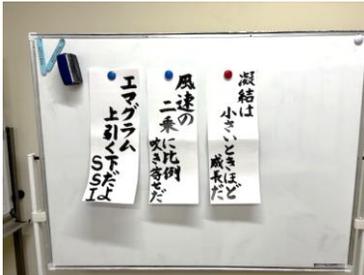


橋浦奏雄氏(84歳・1972年)

シベリアの地で生き物が営んだ団結と相互扶助を、橋浦は高円寺で城西消費組合という団体をつくり活動することで、実現したと言える。現在の生協でも行っている、生産者からの直接購入や、大量に買い付けなど、生活の必需品を少しでも安く組合員に販売した当時では画期的だった、リアカーを用いた組合家庭への配達も、米や炭など重い物まで届けてもらえたので、大変感謝されたという。そのしわ寄せは、今のようには舗装されていない道を、自転車でリアカーを引き、遠くは吉祥寺辺りまで運んだ、組合常勤者の努力の賜物だった。映画上映会、外国語教室運動会、など文化的な催し。当時はタブー視されていた遊戯に関する情報提供。学校であり、遊び場であり、家庭の手伝いを教わる場、子ども会。多様な団結の場を提供し、楽しみを伴ってお互いを助け合い生きていく。イデオロギーを横に置き、橋浦たちが行っていた活動を鑑みると、今の時代にも充分通用するのではないだろうか。



1月18日(日)には第65回試験前の「超直前対策」を気象神社の教室で開催しました。会場受験生、オンライン受験生が9時〜18時まで最後の追い込みに全力を尽くしました。



第65回気象予報士試験 合格祈願(夢☆カフェ)



1月24日(土)「夢☆カフェ」代表の中島俊夫さんが第65回気象予報士試験での夢☆カフェ受験生、全国の受験生の皆様の合格祈願に御来臨されました。

今月の花手水



令和8年1月の御朱印から1枚の御朱印になりました

- ・節分の三つ巴
 - ・豆まきの様子
 - ・逃げる赤鬼、青鬼
 - ・節分のひいらぎいわし
- ※公式サイトに過去の御朱印を掲載していますので、ご覧ください。



令和8年2月の御朱印



今月の御朱印

奉拝

日本唯一

共同通信社加盟新聞で気象神社を紹介して戴きました

掲載新聞(1月)

- 2026/01/15 河北新報夕刊(1面トップ)
- 2026/01/15 北國新聞夕刊
- 2026/01/16 北日本新聞
- 2026/01/16 四国新聞
- 2026/01/20 中国新聞セレクト(1面トップ)
- 2026/01/22 沖縄タイムス
- 2026/01/23 東京新聞夕刊(1面トップ)
- 2026/01/25 下野新聞朝刊
- 2026/01/27 伊勢新聞
- 2026/01/28 山口新聞
- 2026/01/28 西日本新聞夕刊(1面トップ)
- 2026/01/29 中部経済新聞

昨年より(一財)共同通信社より気象神社の取材を受けていましたが、1月中旬以降、各地方紙で掲載されました。

いのち 生命の言葉(令和八年二月)

今上陛下
公務で訪問した地で出会った子供たちが自分の将来について生き生きと話されていたことを嬉しく思い、詠まれたものです



◆ご祈禱のご案内
氷川神社では各種祈禱を承っておりますので、お気軽に神社までお問い合わせ下さい。
また気象神社では晴天祈願をはじめとする各種祈願を承っております。(会社、法人、団体様のみが対象となります)

ひかわ239号をお送りしました。今年の正月は国内外から多くの参拝者にお越しになりました。特に台湾人の参拝者が多く、平日は半分以上は台湾人参拝者です。まだまだ忙しい日々は当面続きそうです。
1月は気象予報士試験がある月です。気象神社で勉強された受験生が一人でも多く合格されることを祈念します。
早いもので、節分、初午祭と続き、3月のひな祭り餅つき大会もあつという間にやっつきそうです。

編集後記

今月の盆栽



氏子地域の盆栽屋ラビア デッソ様が毎月盆栽を神社に届けてくれます。素敵なお盆栽を毎月紹介していきます。